



カンボジア王国初等教育教員養成機関での 教員養成支援及び指導教員の指導力向上支援事業



カンボジアでは、1975年から1979年のポル・ポト政権による教員をはじめとした知識人の大量虐殺や教科書を含む大量の書籍の焼却によって、教育の基盤が大きく損なわれてしまいました。その後の政権により学校の建設や教員の増員等は着実に進められていますが、熟練教員や教材の絶対的な不足により教育の質は未だ低い水準にとどまっており、指導教員への人材育成支援が強く求められています。加えて、産業の高度化という点においても理数科分野の人材育成は極めて重要で、早急な人的支援が望まれています。



当センターは2016年、2017年に現地調査を行い、小学校等の理科教育現場で実験器具そのものが不足していること、授業に効果的に実験を組み込む能力を持った教員が不足していること、教員養成制度改革で掲げられている「IBL(Inquiry-Based Learning. 探求型授業)」の導入支援が必要であるなどの課題を聞き取りました。そのため、カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省とカンボジアで教員派遣事業を行っている(公財)CIESF(シーセフ)の二者と協定を結び、「カンボジアの初等教育教員養成機関での教員養成支援及び指導教員の指導本事業」に取り組むこととなりました。

指導教員の能力向上のため神戸市教員 OB を派遣



実験の様子



単位換算計算尺の製作



テスターを使用し電圧を測定



授業研究会の様子



考案した数学教材



考案した理科教材

11月、カンボジア・コンポントム州小学校教員養成校（以下 PTTC）に教育アドバイザーとして神戸市教員 OB 1 名を派遣しました。「分かりやすい教え方」の技術向上を目標に、理科の実験や算数の図形指導・教具の作成などの活動を行いました。

カンボジア現地視察の実施



教育省表敬



教官の授業



事前授業反省会

12月、当事業の活動状況視察のために、カンボジアを訪問しました。カンボジア教育省表敬訪問では、教育省長官らに本事業の報告を行い、教育の重要性について意見交換を行いました。神戸市教員 OB を派遣しているコンポントム PTTC では、授業を見学し、派遣教員の活動を視察しました。